

学校運営計画(4月)		評価(総合)		
学校教育目標	職業的自立及び社会参加を実現する意志と実践力を有し、誇りと思いやりを持って他者と接する人間の育成をめざす。			
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標		
成果 (1)就職率87%達成 (2)職業一般「清掃」の完全実施と、環境美化意識の向上 (3)朝の運動による覚醒及び体力の向上 (4)学校行事による社会性・協調性の涵養 課題 (1)進路指導体制の強化 (2)就業体験・現場実習のあり方の検討と年間行事の位置づけ (3)職業コースの作業内容、指導体制の再点検 (4)教科指導の充実 (5)研修体制・体系の充実と授業力の向上 (6)寄宿舎教育の再点検	職業教育	「職業一般」において、清掃を主とした環境・整備の作業を充実させるとともに、年間の学習計画を確立する。実践力を高めるため、地域と連携した職場実習の効果的な在り方を探求する。	B	
	心の教育	卒業生及び企業等へのアンケート調査の結果を、今後の進路指導及び職業教育に活かす。 生徒一人一人に自己肯定感をもたせ、思いやりのある態度、協調・協力する態度を育てるために、学級づくり、人間関係づくりに努めるとともに、体育祭や文化祭等の学校行事の在り方を確認し、充実する。		
	授業の改善・工夫	充実週間や職業コースの内容について見直しを行い、今後の職業教育の在り方について検討する。 生徒一人一人に自己肯定感をもたせ、思いやりのある態度、協調・協力する態度を育てるために、学級づくり、人間関係づくりに努めるとともに、体育祭や文化祭等の学校行事の在り方を確認し、充実する。		
	寄宿舎教育	学校・家庭との連携のもと、生徒一人一人の個性や特性を踏まえ、課題に対し適切な指導・支援を行う。発達障害や情緒障害等の特性に応じた指導・支援が行えるよう、特別支援教育に関する研修に努める。		
		学校・家庭との連携のもと、生徒一人一人の個性や特性を踏まえ、課題に対し適切な指導・支援を行う。発達障害や情緒障害等の特性に応じた指導・支援が行えるよう、特別支援教育に関する研修に努める。		
		学校・家庭との連携のもと、生徒一人一人の個性や特性を踏まえ、課題に対し適切な指導・支援を行う。発達障害や情緒障害等の特性に応じた指導・支援が行えるよう、特別支援教育に関する研修に努める。		
学年・分掌	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の課題
教務部	職業教育の充実	昨年度の職業一般完全実施を受けて、年間の学習計画を確立する。又地域との連携も継続して策定する。職業専門に於いても、外部講師や外部との連携等内容の充実を図る。	B	B 職業一般の完全実施後、年間指導計画の策定は出来たが、地域との連携は、時間の余裕が無く十分な実施は出来なかった。職業専門の外部講師招聘は一部のコースでは実施できたが、他コースでは今後も検討が必要。行事検討委員会に於いて、業者等も勘案した食事と週時制の検討は継続して行えたが、就業体験については外部との要因が大きく、継続審議となった。総学は、今年のパターンで支障が無い様なので、定着しそうである。道徳は3年実施後のアンケート等も踏まえ、継続して実施した。人権教育と連携するか分けるのかの住み分けの検討が必要。 本年度も面談週間を実施し、いじめアンケート等の充実を図ることは出来た。特に生徒間のトラブルや悩みについて早期に発見することが出来、早い段階での解決が出来た。 転任者への提示や、記入例や掲示フォルダ等の活用である程度の軽減は出来た。様式等まだ充分では無い所が見つかったので、続けて精選していく。引継ぎへの整理は少しずつ進んでいるが、諸規定集は余り進まなかった。データ化や引継ぎの準備は今後も随時行っていく。
	授業の充実・工夫	昨年度提示された年間指導計画の見直しを受けて、各教科の目標の確認、指導内容の見直し等教科を越えての見直しも行う。	B	
	行事の内容の検討と精選	行事(教育課程)検討委員会を中心に、進路指導部と連携し、長いスパンでの就業体験の在り方を検討する。又総合的な学習の時間の位置付け、行事の内容等の検討も引き続き行う。	C	
	道徳の時間における指導の継続	時間における道徳指導を3年間試行し、昨年度アンケート等でのおまとめを行った。本年度も継続して、学期に1回の形で行うが、反省を受け人権教育とより連携した形で行い、内容も3年間の実績を生かし、精選・充実した形での実施を目指す。	B	
	相談週間の継続	新時制により放課後の時間は少し確保出来る様になった。本年度も生徒指導部と連携し相談週間を実施し、より深い面談を行い生徒の実態を把握する為の時間を確保する。	A	
	解り易い教務事務処理	転任者への事前の資料提示や、校務全般に関する諸規定集や覚書等を引き続き作成・整理をする。又、提出書類の記入例や、掲示フォルダやDIGI連等を使った事務処理軽減、成績処理や出席簿記入、データ化した指導要録の対応等、解り難い所や現状に合っていない所の改善に努め、引き続き事務処理の効率化を行い、生徒と向き合う時間を増やす。	B	
第1学年	学校や寄宿舎の決まりの順守	学校や寄宿舎の決まりについて繰り返し確認するとともに、「決まり」を順守することは社会参加の必要条件であることをホームルームなど教育活動全体を通じて説諭する。	B	B 「『決まり』を順守する重要性」については、保護者と共通理解を図り、協力して繰り返し生徒に説諭していく必要がある。「自己理解の推進」については、教師が生徒の障害特性や認知特性などの実態を把握した上で指導計画を立案、実行する必要がある。また、「自己統制力の向上」については、医療や心理等の関係機関と連携して取り組む必要がある。
	積極的な挨拶の励行	場に応じた挨拶の方法やタイミング等を具体的に確認させるとともに、不適切な場合にはその都度指導する。	A	
	自己理解の推進	様々な活動に挑戦させたり自分のことを振り返る機会を設けたりして、「できること」「できないこと」「がんばればできるようになること」について自覚させる。	B	
	自己統制力の向上	改善すべき行動が表出した場合には、気持ちが変動する兆候を自覚できるように、その前後の言動について教師と一緒に振り返るとともに、具体的な対応策を日常生活で実践させる。	B	
第2学年	基本的な生活習慣の確立	ホームルームや各教科に指導を通して、社会人としての基本的なマナーや清掃・準備・後片付け等の職務遂行力の定着を図る。	A	B 丁寧な担当者の準備のおかげで生徒が見通しをもって取り組める環境が作れた。生徒の積極的な行動が増えた。人の気持ちを察する視点を場面ごとに意識させたことにより、不適切な言動であることは判断できる場面が増えてきたが、適切な具体的な行動が取れるまでにはいたらなかった。人の気持ちに配慮できてよかったと思える経験をさせたいと考える。
	基礎学力(社会適応スキル)の向上	授業規律の確立と共に生徒の学習特性・課題等の把握に努め、生徒が見通しをもって活動できるように指導内容・方法の改善・充実を図る。	B	
	思いやりに基づいて他者と交わる場の設定	学級や学年単位での活動や学校行事・道徳の指導等の取組を通して、思いやりのある言動ができるように具体的に行動レベルの目標をもたせ、他者と協調・協力し、役割を果たす経験を積ませる。	B	
	職業的自立及び社会参加に向けての積極性の向上	就業体験等の進路行事やホームルーム活動、各教科の指導を通して進路についての意識を高め、積極的な行動を引き出す。	A	
第3学年	基本的な生活習慣の確立	ホームルーム・各教科等の指導(全体・個別)をととして、挨拶・返事・報告・連絡・相談、清掃、整理整頓、当番業務の遂行、ルール遵守やマナーの徹底等、自立に向けた指導を行うとともに、規則正しい生活習慣の確立を図るべく、寄宿舎と密に連携する。	A	B 年間を通して学年全体の協力体制があった。この結果、早い段階で進路活動に取り組むことができた。このことは、個別の対応で生徒の進路を考え、将来安心して働くことを見据えた活動につながった。また、突発的な事態において、迅速に対応することができた。課題としては、社会人になる、大人になるという意識を十分指導することができなかったため、緊張感が見られず気が緩んだ場面がみられたことである。常に職業的自立及び社会参加を念頭に置き、日々の生徒指導に努める必要がある。
	基礎学力の向上	授業においては将来の生活に真に必要な内容を精選する。また、生徒の理解度・認知特性等を把握し、個々の学習特性に配慮した指導を行う。	B	
	道徳心の涵養	日々の生活指導及び道徳・人権特設学習をととして、物事の善悪を認識させ、規範意識の確立に努める。また、学校行事や生徒会活動等の取組をととして、他者と協力して役割を果たす経験及び最上級生としての責任ある行動を積ませることで、自己肯定感をもたせる。	B	
	自分で進路を決められるスキルの向上	各教科の指導、職場実習、進路ホームルーム、個人面談、進路三者面談等をととして、他者の協力を得ながら自己の進路について主体的に考え、行動し、卒業後の社会参加のイメージを持たせる。	A	
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立	挨拶、返事、言葉遣いについて、学校生活のあらゆる場面で社会人としてのマナーの育成に努める。 授業時間と休み時間とのけじめを意識した生活をさせ、5分前行動がとれる態度の育成に努める。	B	B 笑顔の種をまき、明るい学校生活を送るよう指導してきたが、文化祭終了後より問題行動が増えた。幸い大きな問題行動への発展には至らなかったが、生徒の行動にアンテナを張り、大きな問題行動に発展することがないよう情報共有に努めて指導していく必要がある。 生徒会長の発案から、挨拶コンテストを実施できた。この取組をさらに充実させ、いじめのない明るい学校生活を送れる環境作りに努める。 体育祭や文化祭をより充実させることで、困難に立ち向かう力を養い、協力して行事を成功させる体験をととして、協力する喜びや達成感を得ることができるよう取り組む必要がある。
	いじめのない学校づくり	いじめアンケートや生活ノート、連絡帳から、問題行動を早期発見し早期対応することで、未然防止に努める。 生徒会を中心に、いじめのない学校の雰囲気づくりに取り組み、全校生徒の意識高揚に努める。	B	
	学校、寄宿舎及び保護者との連携の強化	生徒の情報の共有を確実に行うことで、学校と寄宿舎の連携強化に努める。	A	
	問題行動を繰り返す生徒への指導	該当生徒の情報共有することで、全職員で問題行動を繰り返さないよう見守り、支援に努める。	A	
		昼休みの西側階段付近を重点に巡回指導を行い、問題行動の未然防止、問題を起こしにくい雰囲気作りに努める。	B	

学年・分掌	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の課題
進路指導部	生徒一人ひとりのニーズや特性に応じた進路指導 卒業後の自立に向けての系統的なキャリア教育の推進 職場定着に向けての関係機関との有機的な連携	1学年で自己理解し、2学年で自己選択し、3学年で自己決定できる進路ホームルーム計画を立案し実践する。	B	B	家庭・事業所・支援機関等が一体となって定着支援を行うことができるように、渉外担当職員が中心となって、各機関への報告・連絡・相談を積極的に行う。また、卒業後に家庭の協力を得ることが困難な生徒には、生徒自身が考えて行動できるように在学中にしっかり指導や支援を行う。 進路指導部の各業務担当者の意見を踏まえつつ、他の校務分掌との連絡調整を図りながら、来年度の活動計画を立案する。 職員研修や保護者進路学習会等を通じて、アンケート調査結果についての共通理解を図る。
		生徒の特性や希望職種等を踏まえながら、個に応じた就業体験、職場実習を行う。	A		
		新規事業所への積極的な学校紹介や、卒業生の就労先への求人情報の確認などを行い生徒の実習機会を増やす。	B		
		外部講師を招いての進路学習会や学校外での体験活動を積極的に設けて社会人に向けての経験値を増やす。	A		
		卒業生及び企業等へのアンケート調査をまとめ今後のキャリア教育に生かせるように整理する。	B	B	
		職安や障害者就業・生活支援センターなどの関係機関と積極的に情報交換を行い進路実現や職場定着を図る。	A	A	
		卒業後3か月以内の職場定着支援だけでなく、離職が懸念される場合には必要に応じて複数回職場訪問を行う。	B		
寮務部	円滑な寄宿舎運営に努める 日課指導の充実と基本的生活習慣の確立 社会生活に適応できるよう、基本的生活習慣を確立させる。 社会性を身に付けさせ、生活力を向上させる。 自主性や自律性、責任感や協調性を身に付けさせる。 自己の健康安全に留意し、適切に対処する能力を身に付けさせる。 生活環境に対する関心を高めさせ、環境美化に努める態度を育成する。 生徒の生活習慣の実態把握に努めるとともに、職員の資質向上を目指す。 在校生の成長過程を発信するとともに、卒業生の支援と交流を行う。	寄宿舎の施設・設備及び生徒の日々の問題や課題についての情報収集に努める。また、共有すべき内容については全職員で周知徹底を図り、解決すべき内容については関係各所と連携して迅速に対処する。さらに、支援会議で、個の特性に応じた支援方法について協議し、全ての生徒が楽しく充実した寄宿舎生活が送れるようにする。	B		基本的生活習慣の確立に向けて、指導の観点を明確にして全職員で指導を行ったことに効果があった。生徒達は、挨拶と丁寧な言葉遣いを習慣化することができていないため、習慣化することができるように、職員間で指導の視点の確認を行い、一貫した指導を行うことができるようにする。また、挨拶週間を設ける等の指導の工夫を行う。 ストレス対処法を知らない生徒がいるため、余暇活動や自由時間を通して、自分に合ったストレス対処法を身に付けることができるように指導を行う。 緊急事態(災害、不審者等)に備え、施設設備やマニュアルの改善や見直しを行う。
		登校後、各部屋の整理整頓の状況を点検し、給食後及び下校後に改善指導を行う。また、棟を見回す際、指導の観点を明確にして全職員の協力の下に各部屋の点検を行う。	A		
		卒業後の社会生活を視野に入れ、日々の日課指導を徹底して行うことで基本的生活習慣の定着を図る。	A	B	
		種々の避難訓練を実施することにより、非常時の対応力を身に付けさせる。	B		
		地域生活のための適応力を養うために、セルフスタディや生活学習の充実を図る。	A	B	
		毎週水曜日に余暇活動の時間を設け、各棟や各班と連携、協力し、余暇の充実を図る。	B		
		活動の内容や方法と望ましい行動を分かりやすく生徒に伝えることで、舎の行事や生活への意欲を喚起し、自主性や協調性を身につけることができるようにする。	B	B	
		てんばい会役員選挙の計画及び実施に向け、生徒がリーダーシップを発揮できるよう、支援を行う。	A		
		養護教諭、栄養教諭及び保護者との連携を深め、生徒の健康管理に努める。	B	A	
		平熱検査や健康チェック、食事指導週間等を実施し、健康管理や食事のマナーに対する意識を高めさせる。	A		
		生徒に与えた区域の清掃・美化活動を徹底して行わせることで、快適な生活環境づくりについての意識を高めさせるとともに、仕事に対する責任感を養う。	A	A	
		備品の管理及び設備等の点検・営繕を密に行い、生徒が快適に生活できるように努める。	A		
生徒の生活面における評価表を基本的指標として「生活自立段階表」を作成し、生活支援に活用するとともに、保護者にも提示して、家庭での指導に資することができるようにする。	B	B			
舎内研修会や学舎合同会議を実施し、生徒理解を深めるとともに知的障害教育、発達障害教育及び生活支援における専門性の向上を目指す。	B				
保護者に確実に見てもらうようにするために、寄宿舎便りの内容を充実させる。また、卒業時の「思い出DVD」を制作し、生徒間の絆を深めさせる。また、生徒のプライバシーを厳重に管理するために、保護者と連携して、遺漏のないように努める。	A	A			
同窓会活動を支援し、卒業生の社会参加の状況を把握して、情報の整理及び生活面におけるアフターケアに努める。また、卒業生の生活状況を在校生の生活指導に生かしていく。	B				
保健部	生徒が自分自身で健康を管理できる能力を養う 安全な食の提供と望ましい食習慣の定着 環境美化に努める生徒の育成 生徒の実態に合わせた性に関する指導の充実	手洗い、うがい、水分の補給等の指導を、様々な教育活動の場面で行う。	B	B	指導した際は手洗い、うがい等を行うが、自ら手洗い、うがい等を行う生徒は少ない。様々な教育活動や委員会活動を使いながら手洗い、うがい等の重要性を生徒に伝える。 性教育の題材を精選したり、新たな題材を加えた。題材によっては実態幅が大きすぎ生徒には難しい場面があった。生徒の実態にあった題材を再度、検討していきたい。 研修会や学年の協力により、日々の給食指導がスムーズに行えた。
		感染症が流行する時期に感染経路等をわかりやすく説明して、動画等を使いながら手洗いの方法を指導する。	B		
		寄宿舎と連携しながら、生徒の個々の身体状況や健康状態の把握に努め、体調不良の生徒に適切に対応する。	A		
		研修会を利用して、食物アレルギー等、食事に配慮が必要な生徒の実態を全職員に連絡する。	A		
		掃除が行いやすいよう、清掃区分を考え清掃道具の個数を決める。	A	A	
		職員が清掃区域の役割分担等決めることができるよう、清掃区分や大掃除の計画を余裕をもってだす。	A		
		実態調査アンケートをもとに実態にあった内容を検討する。	B	B	
		単元によってはクラス編成を工夫して実施する。	A		
研修部	本校の実情及び生徒の実態に即した効果的な指導内容・方法についての研究 職員の指導技術の向上および協同体制の強化を目的とした研修 高い専門性を有する後進の指導者の育成を目的とした研修および実習等	学校教育研究において、これまでの校内での言語活動を取り入れた授業実践について評価し、意味付けを行う。	A	B	学校教育研究は、新しい主題で取り組むこととなるので、綿密に計画を立てて進めたい。 他の分掌、特に特別支援教育部との連携し、専門性を高めるための研修を実施したい。諸検査(WISC-IV、DN-CAS)による実態把握と、その結果を基にした生徒の教育的ニーズに応じた指導に関する研修を次年度は行う。
		学校教育研究において、少人数での演習を取り入れたグループ研修や、研究授業等を行う。	A		
		授業者、参観者の授業作りに役立てやすいように、学習指導案及び参観記録用紙の様式を改善する。	A		
		特別支援教育の専門性を高める観点で各分掌と連携を図り、効果的な研修を計画・実施する。	B		
		前年度のアンケートで出された意見を反映し、新転任者研修を計画、実施する。	A		
		校外における研修会について、Digi連や掲示板等を活用し周知徹底する。	B		
初任者研修において、教科指導員や各分掌と連携を図り、実務に即した研修を計画、実施する。	A	A			
大学との連絡調整や校内での指導体制作り等の在り方を検討し、教育実習や介護等体験を円滑に効果的に実施する。	A				
特別支援教育部	教員の専門性の向上 校内の支援体制づくり 地域におけるセンター的機能の充実	職員の専門性の向上並びに研究等に資する研修等を研修部等と連携しながら、計画的に実施する。	C		全職員の専門性を高めるため、具体的な研修内容を検討する。個別の教育支援計画は、活用しやすいように改善に努める。特別支援チーム会議やケース会議等を行い、配慮を要する生徒について、全職員が共通理解を図り統一した指導を行うために来年度も実施する。生徒の個人情報管理を徹底する。生徒の心理的安定を図り、安心して学校生活を過ごせるようにスクールカウンセラーと連携し指導にあたる。 地域への支援体制を整え、各関係機関と連携の強化を図る。
		個別の教育支援計画の活用を図る。	A	A	
		支援チーム会議、ケース会議等を通し、学年、分掌との連携を推進し、校内支援を進める。	A		
		スクールカウンセラーと連携して、校内支援に努める。	A		
		地域の特別支援教育の充実を図る。	B	B	
		各関係機関等との連携を図りながら、地域の支援体制づくりを目指す。	B		
企画庶務部	本校の広報活動 学校と保護者・同窓生および地域関係者との連携・協力 視聴覚機器や放送機器の管理徹底と活用推進	本校の教育活動を紹介のため、学校要覧・学校案内の発行を行う。	A	B	広報紙の発行、ホームページの更新等を定期的に行うことができた。学校行事の様子を職員室前廊下に掲示しているが、写真の張替えが不定期になっていた。保護者や学校見学者が日ごろの学校の様子等が分かるように、ホームページ同様定期的な更新をしたい。PTA役員との連携をとり、多くの保護者に学校行事に参加してもらうことができた。 視聴覚機器等の管理、整理などは今後も継続的に行なっていきたい。
		学校ホームページの定期的な更新を行う。	A		
		日ごろの教育活動や学校行事の写真を定期的に掲示する。	B		
		PTA役員を中心に連携体制をつくり、保護者の本校教育への理解を促進する。	A		
		卒業生親の会と連携し、在校生の支援に有用な情報を相互に交換する。	B		
		寮務部交流・支援班と連携し同窓会活動の運営を支援する。	B		
視聴覚機器・放送機器の点検を定期的に行う。	B	B			
校内の情報機器の管理業務を円滑に行い、活用しやすくする。	B				
視聴覚教室や準備室等にある備品や消耗品の整備を行う。	A				